

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100566		
法人名	株式会社ジャパンケアサービス		
事業所名	グループホーム遊宴秋田旭川 (太平)		
所在地	秋田市旭川清澄町16番17号		
自己評価作成日	平成26年8月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成26年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・包括拠点となっており、訪問介護事業所・居宅介護事業所が同じ敷地内に併設しており、様々な状態の利用者様の対応が可能である。 ・地域との関わりを大切に、地域の方にも参加いただける、お祭りを年に一回開催。また、町内会行事への参加や地域住民を対象とした介護教室を開催し、地域住民と利用者様が関わりを持てるような支援を行なっている。 ・自社及び提携医の方針にて看取りのケアも積極的に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内で定期的研修を行っており、職員全体のスキルアップを図ることで、より質の高いサービスの提供に繋げている。 ・家庭的な雰囲気作りを大事にしており、職員一人ひとりが自分が利用者及び家族であった場合、どのようにサービスを提供して欲しいかを常に考えながらサービス提供にあたっている。 ・職員が管理者やケアマネージャーに相談したり、提案したりしやすい関係が作られており、風通しのよい職場環境が構築されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業全体での理念しか掲げておらず、今後、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を設定したい。	事業所理念はまだ設定していないが、企業理念については職員一人ひとりが意識しており、家庭的な雰囲気大切にしながら支援するという共通認識を持って支援にあたっている。	事業所独自の理念を職員間で話し合っ設定することで、理念を身近に感じ、サービスの中で理念を具現化されていくことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に参加していただける夏祭りを年に一度開催し地域との交流を図っている。同様に、地域での行事や催しにも積極的に参加。また、事業所での活動を地域の方を対象に年3回を目途に開催している。	町内会に入っており、町内の演奏会や夏祭り等の行事に参加している。事業所で行っている健康作り活動には利用者のみならず地域の方にも参加を呼びかけ、事業所の機能を地域住民にも活用してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議の際に、町内会長様や民生児童委員様に現在のグループホームの状況等をご説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、地域包括支援センターの職員様にもご参加いただいている。そこでは地域行事等の情報交換やボランティアの提案もいただいている。	会議の中で利用者家族や地域住民からの意見や提案を実行・回答することで、事業所と参加者間の双方向的な話し合いとなり、会議内容がより良いサービスに繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護事故の報告や加算に関して不明な点があった場合には、必ず市担当者へ相談し、指示を仰いでいる。また、空室が出た場合には地域包括支援センターへ連絡し情報の共有をしている。	介護事故等があった場合には市町村に報告したり、アドバイスをもらう等して連携を図っている。この他、研修の情報提供をしてもったり、市主催の集団指導への参加を通して協力関係を築きながらサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1度は全職員を対象とし、身体拘束に関する研修を行い、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	現在身体拘束の対象者はいない。管理者やケアマネージャーが講師となって身体拘束に関する研修を行い、職員への意識付けを図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度は全職員を対象とし、高齢者虐待に関する研修を行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市内GH連絡会において、自立支援事業や成年後見制度について話の折に触れることはあるが、研修の機会は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、ご了承いただいたから署名・捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された際に気軽に相談できる雰囲気作りに努めるとともに、玄関に意見箱の設置や苦情解決制度についてのお知らせを掲示し、意見、要望をもとに改善している。	家族から意見等があった場合には、その意見について対応するとともに打ち合わせ等で職員に周知している。苦情内容についても運営推進会議で報告する等して、家族が気兼ねなく要望を伝えることができる関係作りに努めている。	利用者家族から要望のあった職員の名前の提示方法について、信頼関係をより強くするために迅速に工夫し対応されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の事業所会議の際に、職員から意見や提案を聞く機会を設けている。また、管理者は職員と個別に話をする機会を持つよう努めている。	普段から職員が管理者やケアマネージャーに意見や提案をしやすい関係が築かれているため、利用者支援に関すること等、積極的な話し合いがなされており、より良いサービス提供に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力を把握し、能力に応じた仕事を割り振っている。また、勤務態度や能力に応じ、給与を向上させるなどの実績もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じ、外部の研修や社内開催の研修に参加させ、スキルの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内GH連絡会「ケアパートナーズ」に参加。交流会や研修会を通し交流する機会を設け、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを提供する前の事前訪問を必ず実施し、ご本人の希望や不安の聞き取りを行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを提供する前の事前訪問を必ず実施し、ご家族の希望や不安の聞き取りを行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする				
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者にも役割を持って生活していただき、一つの家族のような関係作りを目指している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などの催しの際には、連絡を取りご家族にも参加していただき、ご本人と家族の絆を大切にしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前訪問の段階で、ご利用者の人となりの把握に努めている。また、個別の外出の際には馴染みの美容院や寺院にも出かけている。	利用者の行きつけの美容室に連れていったり、職員が位牌の水替えを手伝ったりと、それまで慣れ親しんできた地域との関係や自宅での習慣が継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の関係を大切にし、座席の配慮や孤立しないような支援に心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族に連絡を取り、状況の把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との関わりの中で、ご本人の思いや暮らしの希望の把握に努めている。	アセスメントで本人の意向や好みを確認する他、日々の生活の中での会話から利用者の思いを把握するよう努めている。意思疎通が困難な方には、表情から気持ちを汲み取ったり家族等からも情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問の段階で、ご利用者の人となりの把握に努め、不明な点がある場合には、ご家族に積極的に質問をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日ご利用者一人ひとりの個別生活記録を残し、その方の一日の暮らしの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度はカンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。来所できないご家族へは電話にて確認を行い、計画書に反映させている。	担当者会議には利用者家族からも参加してもらい、思いや意見を聞き取っている。利用者本人の状態に変化があった場合には必要に応じてカンファレンスを行い、介護計画を見直しながら状態の変化に応じている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別生活記録を残し、日々の申し送り等で、職員間での情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事やイベントを通して豊かな暮らしを楽しめるよう努めているが、全ての地域資源の把握には至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の意向に従いかかりつけ医の選択をしていただいている。また、ご家族が受診される場合には、生活状況が医療機関に伝わるよう、状況報告書を提出している。	本人や家族が希望する医療機関へ受診している他、往診を利用している利用者もいる。歯科医の往診もあり、入れ歯の調整等をしてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護師に全てのご利用者を見てもらい、職員から看護師へ状態報告をし連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された際には、医療機関の相談員や看護師と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で、重度化・看取りの際の指針の説明を行っている。	契約時に看取りの指針の説明をし、本人や家族の意向も確認している。看取りの事例もあり、状態に変化があった時は医師や家族も交えて話し合い、看取った後も家族が後悔しないように、自分の家族だったらどうしたいかという視点を持ちながら事業所としてできる支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練を定期的に行っていないため、今後努力が必要と考えられる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施しているが、地域消防団と連携した訓練はまだ実施していない。	避難訓練を実施するとともに、自分が車椅子利用者だったらという想定で実際に避難経路を車いすに乗って移動する等のシュミレーションを行っている。今後は夜間想定訓練も行う予定である。	防災対策の一環として、車椅子利用者及び歩行不安定な方がより安心・安全に避難できるよう、避難経路が利用者にとって優しい環境となるよう、歩道の設置や段差の解消等の工夫をされることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間でご利用者のプライバシーに係る話をする際は話す声量や場所等を考慮し、インシヤルや部屋番号で会話をしている。ご利用者を呼ぶ際はご本人を尊重した呼び方をしている。	管理者は日頃より、利用者は自分たちより年長者であること、家族や第三者の視点を持ちながら対応することを話されており、職員も利用者の人格を尊重する姿勢を持ち、対応や言葉遣いに気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の機会を多くするよう心掛け、着る服や食べ物等を始め、ご本人に好みを尋ね決定してもらう。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のこれまでの生活ペースを大切にし、可能な限り希望に沿った生活ができるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ご本人の好みであった衣装や服装を把握し、その人らしいおしゃれができるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けや盛り付けの工夫等、調理をご利用者と共に行い食事を楽しいものと認識していただいている。メニューの決定に関してもご利用者の希望を取り入れている。	配食サービスを取り入れつつ、利用者の希望を聞き取って献立を決めており、時には寿司の出前を取る等、食べる楽しみを提供できるよう取り組んでいる。調理や準備、後片付けに利用者が参加できる時は一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嫌いな物はメニューの工夫やジュースにするなど形態を変える工夫をしている。水分の確保はスタッフ全員で重点的に状況を把握している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後・就寝時のケアは声掛けをしできるだけ自力にて行っていただいている。磨き残しや仕上げ等のチェックを充実させたい。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの能力に応じて支援。また排泄表を用い排泄パターンの把握にも努めている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、なるべくトイレで排泄できるよう支援した結果、失敗が少なくなった事例がある。夜間の排泄支援も個々の睡眠パターンに合わせて個別対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を摂る等、食事での工夫による自然排便をを基本に、医師と連携し内服薬による排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者それぞれのペースにあわせ入浴の無理強いはしていない。ご利用者の希望により入浴剤等で楽しんでもらっている。	利用者一人ひとり、お湯を替えて入浴することで、好みの湯温や入浴剤の使用、ゆっくり長湯する等、その人にとって気持ちの良い入浴時間になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の全体的日課を決めずに生活していただいている。ご利用者自身の希望に応じて個別的な活動の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の作用・副作用が記され、用法と用量が分かる個人票を用意し理解に努めている。その上で体調について主治医と情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手先が器用なご利用者には箱作りをお願いしたりと、ご本人に役割を持った生活をしていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	近隣の散歩や買い物同行等、個別の外出機会を設けている。ご本人の希望があればなじみの美容院やお店にも行っていただいている。	天気が良い日は近所を散歩したり、季節感を楽しめる場所にドライブに行ったりしている。行き先は希望を取り入れながら決めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭の管理はご本人にはしていただけてない。ただし、どうしても持っていないと不安になる方には了承を頂いて少額を所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙のやり取りの支援を実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けや植物を備え、季節感を感じていただけるようにしている。また、常時換気を行い臭い等が籠らないようにしている。	共用空間は日当たりが良く広々とした空間で、装飾物は利用者と一緒に作った作品等である。回想法も取り入れ、昔の道具やお金、若い頃に流行していた歌手等の写真を掲示し、思い出話が弾む環境作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	自由に利用できる共用のソファを置き、ご利用者同士交流しやすく工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのタンスやテーブル、ぬいぐるみやお花等自分流の個性のある居室にして過ごせるよう工夫している。	自宅から馴染みの物を持ってきており、個々に居心地のよい居室になるようにしている。収納スペースもある程度の広さがあり、整頓しやすい部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は表示はプライバシーを考慮しているが、共用の浴室やトイレには大きく表示し、認識しやすいよう工夫している。		